

はじめに

—— 女性のくすりへの苦手意識克服をお手伝いします！ ——

子宮や卵巣、女性ホルモンの変化による病気や症状で困っている女性はかなりの人数にのぼります。しかし、女性特有の疾患に対する治療には、ホルモンに関するさまざまな薬が登場するうえ、女性の体調は月経周期によって変化し、さらに妊娠の可能性も考慮する必要があります。そのため、「薬を扱うのが難しい!」と感じる医療者は多いのではないのでしょうか。

でも実は、女性ホルモンの変化や月経による症状、女性ホルモン製剤の使いかたは、一度ポイントを押さえれば、とても理解しやすくなります。本書では、薬の基本的な知識から臨床現場における実際の使いかたまで、わかりやすく解説しました。

第1章では女性の健康に関する薬剤の基本的な情報と実際に使用する際のポイント、第2章では臨床現場での実際の使いかた、第3章では女性診療や薬剤業務で重要なホルモンや疾患を解説しています。本書を読むことで、女性医療の基礎から臨床までがつながってイメージできるようになることを目標にしました。

最初に述べた女性特有の疾患などによる日本での1年間の経済損失は、更年期症状で1.9兆円、月経随伴症状(月経痛や月経前症候群など)で0.6兆円、婦人科がん(子宮がん・卵巣がん・乳がん)で0.6兆円、不妊治療で0.3兆円と報告されています(令和6年2月 経済産業省)。あなたの目の前にいる女性、周りにいる女性、大切な関係にある女性も、もしかしたら女性特有の症状で困っているかもしれません。そんなとき、本書で学んだ知識が少しでもお役に立ったら嬉しいです。

明日からのあなたの薬剤業務や診療における「女性の健康支援」が、さらにパワーアップするように。

2025年3月

淀川キリスト教病院産婦人科 医長
柴田綾子